

令和 5 年度 実施計画調書

担当部	都市建設部
担当課	都市計画課

施策の大綱	都市基盤の充実
施策分野	住宅・宅地

<input checked="" type="checkbox"/> デジタル田園都市
<input type="checkbox"/> ゼロカーボンシティ

事業名	空き家活用基盤構築事業
-----	-------------

予算科目				部内の優先順位
一般会計	8 款	4 項	1 目	-

事業の全体像

①現状（今、どのような課題があるか）

紙ベースにより空き家状況を管理していることから、空き家の危険度等の全数把握ができておらず、また個々の空き家の状況把握に時間と手間を割いていることから、業務の大きな比重となっている。空き家の増加と共に近隣住民からの苦情に関する相談は後を絶たず、問題が顕在化している。また、地方移住への関心の高まりやテレワークの推進により、地方への人の流れが加速しているとともに、IC周辺の企業立地により、住宅の需要も高まっているが、空家等の既存ストック活用への需要に応えることができず、新たな仕組み構築が必要である。

②対象（誰を・何を対象とするか）

常総市内の空き家を調査し、空き家と判断された物件をデータベース化する。

③理想（最終的に、現状や対象をどのような状態にしたいのか）

紙媒体により管理されていた市内空き家の状況や指導・改善の進捗管理、利活用可能か否かの判断などの情報をデータベース化することで、管理不全空き家の事前抑制と業務効率化に伴う人員削減を図るとともに、庁内各課へ様々な業務への活用を目指す。また、移住者や民間事業者が自発的に利用可能なデータベースとすることで、移住定住や新たな事業の創業などの受け皿として空き家を活用する基盤を作り、定住人口や交流人口の拡大によるまち全体の活性化を目指す。

④手段（どのような活動・取組みを行い理想に近づけるのか）

市内空き家の状況をデータベース上で把握することで、デジタル技術の活用を可能にし、空き家所有者に対して「常に」「量的に」「適切に」アプローチできる体制を構築し、業務の効率化を図る。またデータベース構築後は、不動産事業者はもとより、幅広い空き家活用者へデータベース利用の普及啓発を図ること、将来的な民間主導の空き家流通サイクル実現を目指す。

成果指標				
指標名				単位
空き家のデータベース化件数				件
現在値	目標値			
令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	最終目標値
0.00	200.00	400.00	600.00	1,200.00

令和 5 年度 事業内容	令和 6 年度 事業内容	令和 7 年度 事業内容
<ul style="list-style-type: none"> データベース構築：2,079千円 実態調査：1,604千円 水海道地区、石下地区 豊岡地区、岡田地区 (31.15km²) システム運用管理：1,117千円 	<ul style="list-style-type: none"> システム運用管理：990千円 所有者アプローチ データベース普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> システム運用管理：990千円 所有者アプローチ データベース普及啓発
予算額 4,800 千円	予算額 990 千円	予算額 990 千円
特定財源 2,400 千円	特定財源 千円	特定財源 千円
一般財源 2,400 千円	一般財源 990 千円	一般財源 990 千円

備考 デジタル田園都市国家構想推進交付金（内閣府：補助率1/2）を活用を活用調査手法等に応じて、令和6年度以降は事業個所や内容を精査し、事業費削減に努める。最終目標値は住宅・土地統計調査に準じて設定